

地球温暖化防止活動推進員通信

【創刊号：平成 22 年 6 月 18 日発行】

<目次>

1. 特別寄稿

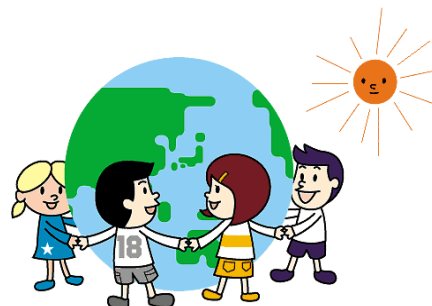
後藤康宏 環境政策課長

2. わたし（たち）の推進員活動

菅谷匡さん（1 期）・菊地ひろ子さん（3 期）

3. 活動 Pick Up（ピックアップ）

4. お知らせ



特別寄稿

推進員以外の方から、推進員の皆様へのメッセージを掲載するコーナーです。創刊号を飾るのは、後藤康宏環境政策課長です。

地球温暖化防止活動推進員の皆様には日頃、地球温暖化防止、二酸化炭素削減行動について、県民の方々の活動を率先実行し、誘導し、サポートしていただいております。



後藤康宏 環境政策課長

地球温暖化防止の活動は非常に難しいものであると日頃感じています。産業界の取組みは、基盤となる技術が有り、それを活かした製品・システムが有り、そして何より企業活動、収益を求める事業そのものとして展開されるため、その意義や価値、そしてその結果が明確になります。一方、家庭や市民活動における二酸化炭素削減行動について、顕著な成果がまとまって見えるのは、なかなか難しいものです。電気やガスなどエネルギーの使用量は各家庭で計測し家計に反映できるものとして把握できますが、それが県民運動のようなまとまった形に見えないのも事実です。個々人の取組みが、宮城県の、日本のそして世界の二酸化炭素削減行動にどのように貢献しているのだろうか。それができるだけ解るように、個々人や各家庭の取組みを、

繋いでいくのが、推進員の方々にお願いしたいことです。

推進員に関する環境省の研修事業が終了するなど、推進員の活動については、従来の研鑽と実践から、実践力中心になることが明確にされました。これは募集させていただいたときから、ご自身で活動できることを要件として挙げていたことの具体化であるとも受け取れます。しかし、先輩推進員の方々から、活動の場が少ないという声があることも事実ですので、この通信の発行も含めて、環境政策課としても、活動への支援を広め、推進員の活動を結節点として県民の活動がじわじわとネットワークされ、大きなうねりになっていくように、取り組んでいきたいと考えています。

作家の日下公人氏が、「パワーは理論よりも感情にあり、感情は現実から生まれる。」と言っています。推進員の皆様が立ち向かう、現実とそこから生じる感情のパワーを分けてもらえればと考えています。

わたし（たち）の推進員活動

第一線で活躍されている推進員さんやそのグループに、いろいろと語っていただきます。記念すべき第一回目は、推進ネットワーク代表の菅谷匡さんと、気仙沼エコ・フェスタで活躍する菊地ひろ子さんが登場します。

菅谷 匡 さん

第1期 仙台市泉区

①推進員になろうと思ったきっかけ

推進員に応募したのは、01年のIPCC第3次評価報告の内容に驚愕したのがきっかけでした。推進ネットワークは、100人を超える推進員の個人・グループでの活動のしやすいフィールドづくりと、「尊敬と慈愛」を大前提とした連携・協力によって推進員全体のチームプレーに繋がり、県内の温暖化防止活動が「点」から「面」へ広がるを願って結成しました。

②委嘱を受けてからまず始めたこと

既に所持している環境活動のための認定資格等と併せ「温暖化」の現状と今後の予測についても啓発の機会に伝えること。



※ある研修でのコーディネーター。中央が菅谷さん。

③推進員活動を通じて感じたこと学んだこと

環境破壊による、次世代を含む将来世代への影響の拡がりに恐怖感を覚え、訴え始めたこと。

④今最も関心を持っていること

将来世代に緑豊かな地球と有限な資源を残すためにはどうすればよいか。

⑤ここ最近の活動で印象に残ったこと、イベント

昨年11月に、『あなたは将来世代に何を残せますか？』というテーマでの講演とワークショップのコーディネーターを、館連合町内会からの依頼で行ったこと。昨年まで続けた「せんだい・みやぎクールビズ宣言」も印象に残っています。



※小学校高学年への出前講座の様子

⑥今後の予定と目標

推進ネットワークでは、推進員間の活動面における知名度や経験の差を克服し、それぞれのグループの主張と特色を生かし、温暖化防止活動推進の「幟（のぼり）」を支えるプロジェクトチームとして集い、ネットワーク化することによって「幟」がより強調でき、巷間に強い印象と防止行動への納得と実行力を与えることができれば感動の極みです。幸い環境分野における技術者や学者も身近にいるので、推進員の諸グループにも紹介し、グループ全体の事業や構想に寄与出来ればと考えています。

⑦最後に一言

「想い（情熱）」を持って応募したとしても、個人での活動となると、殊に新規推進員の皆さんにとっては、なかなか参加の機会には恵まれず、「想い」とは裏腹に次第に情熱が冷めてしまうこともあるかもしれません。既存のグループ活動の様子を覗き見することから始めては如何でしょうか。



菊地 ひろ子 さん

第3期 気仙沼市

①推進員になろうと思ったきっかけ

平成 18 年、気仙沼市の合併を機に、環境フェアはエコ・フェスタと名前を変え、市民主体の実行委員会による運営に発展しました。実行委員会にはすでに省エネや温暖化防止に関する知識を広めていた先輩推進員も加わり、さまざまな学習する機会を得ることが出来ました。先輩推進員に背中を押されたのが応募のきっかけでした。

②委嘱を受けてからまず始めたこと

「自分が出来ることを伝える」ことにこだわり、自分の足元を見つめ反省と対策を考える作業を始めました。電気の無駄発見や省エネ工夫など暮らしの見直しを試みました。同時に検針票をグラフにし環境家計簿を付け始めました。また主婦を対象に「自分らしく伝える」を目標にプログラムを作成しました。

③推進員活動を通じて感じたこと学んだこと

推進員活動を通して、地球温暖化の問題は遠い地球の危機ではなく足元の地球に立っている私と地球の関係なのだと気づかされました。温暖化防止への努力は次世代の子どもたちの心豊かなくらしを願うためのものだと実感しています。ささやかな草の根活動を継続するプロセスでの人々との出会いが自身を高め、繋がり大切さも学びました。

④今最も関心を持っていること

温暖化が進むと 2050 年ごろには世界の魚種や漁獲量が減少する可能性を最近カナダと英の共同研究グループが示しました。昨年のカツオの不漁などは、海の環境の変化が回遊魚に影響を及ぼした結果かもしれません。基幹産業が水産業の気仙沼は温暖化は切実な課題です。今年のカツオ水揚げは豊漁になるか、それとも、。。。。。



※南三陸町神行堂山植林。右側が菊地ひろ子さん。

⑤ここ最近の活動で印象に残ったこと、イベント

5月24日 南三陸町歌津の神行堂山でみやぎ生協の「こ〜ぷの森植林体験会」が開かれ、参加しました。参加者皆で1畝の町有地にケヤキやクヌギなど11種500本を植樹しました。その後田束山頂上でおいしい牡蠣汁を頂き、海の恵みを満喫。こ〜ぷの森や気仙沼の安波山植樹を通して海の水産資源を守る大切さを訴えたいです。

⑥今後の予定と目標

地域にこだわった温暖化防止活動の取り組みです。まず7月4日開催のエコフェスタの成功です。またエコフェスタの成果を更に発展させるため市民対象の省エネコンクール(仮称)も予定しています。次は青空エコカフェ活動です。商店会の市に農産物やエコ商品販売、エコリメイク体験のブースを出店し温暖化防止を訴えます。

⑦最後に一言

推進員活動は自分で出来ることを深めながら、一人でも多くの県民にCO2削減を促すきっかけづくりです。更に自治体・企業・市民の連携や誠実で公平な人との繋がりによって一層きっかけづくりの場が広がって行くでしょう。「継続は力なり」です。草の根のささやかな活動こそ継続していきましょう。



活動 Pick Up (ピックアップ)

皆様から定期的にご提出いただいている活動実績報告から、皆様の取組みをピックアップして、紹介するコーナーです。今回は、平成21年12月～平成22年3月の活動報告の中から紹介いたします。

1. 活動実績報告集計結果

平成21年12月～平成22年3月の活動実績報告の集計結果は、下記のとおりとなりました。

講演会	学習会・イベント企画等	イベント参加 (行政主催)	イベント参加 (団体主催)	普及啓発 (資料配布)	その他	合計
15 (504)	38 (1225)	14 (1230)	8 (1486)	14 (32)	114 (607)	203 (5114)

※ 件数 (人数)

なお、活動実績報告の提出数は、56 / 102名でした。ご協力ありがとうございました。

2. わたしの出会ったこんな出来事

今回は、手塚祐次さん(第2期)がイベント出展で感じたことをご紹介します。



年月日：2010. 02. 28

場所：仙台メディアテーク

人数：約80名

活動内容

県環境フェアで推進ネットワークの環境診療所スタッフとして参加。エコ電球で省エネ生活見直しをアピールしました。

(活動実績報告より抜粋)

(活動実績報告より抜粋)

気になったのは、最近エコナビが宣伝され人感センサーでテレビが勝手に電源を下ろしてくれるとか省エネ機器に買い換える事が省エネという感覚が広まっているように感じました。

省エネ家電に買い替えたので我が家はエコ家庭という意識があり人の省エネ意識が薄らいでいくように思えました。

主体は私たちと言うことを、如何に啓発していくかが課題だと思いました。

去年は、エコポイント制度が浸透したこともあり、省エネ機器が大きな注目を集めました。これらは、CO₂削減効果があり、光熱費等も安くなり、それでいて以前よりも性能が良くなっています。省エネ機器を買い替えることは、家庭におけるCO₂削減のための有効な手段の一つでしょう。

しかし、省エネ効果があるからといって、これまで以上にエネルギーを使ってしまうのは元も子もありません。いつのまにか、目的が、省エネ機器を買い替えることに変わってしまっているということもあるかもしれません。

手塚さんのいう「人の省エネ意識」を目覚めさせることの大切さと、難しさを垣間見れたのではないかと思います。

皆さんは、普段の活動からどんなことを感じていますか？ (担当：N)

お知らせ

地球温暖化防止などに関するお知らせを掲載いたします。

★地球温暖化防止活動推進員委嘱状交付式を行いました。

4月14日（水）に、地球温暖化防止活動推進員委嘱状交付式を行いました。新たに推進員となる第7期の37名と、1期、3期、5期の方々に委嘱状を交付いたしました。お忙しい中出席された皆様には、厚く御礼申し上げます。

また、去年に引き続き県の温暖化対策関連施策についての説明会を行わせていただきました。今回は、「わたしのe行動宣言」を活用した推進員活動を中心に、説明させていただきました。推進員の太田美智子さんによる「e行動宣言」を使ったグループ活動の事例発表も行いました（太田さん、ありがとうございました）。

「こんな活動の仕方もあるんだ」という情報共有の場を目指してみましたが、いかがだったでしょうか？今後の活動に役立てていただければと思います。



※太田さんによる事例発表の様子です。

★ライトダウンキャンペーン

6月21日の夏至の日と、7月7日の七夕の日は、ライトアップ施設や家庭の電気を消すことで、日常生活の中で温暖化対策を実践する動機づけとする、「ライトダウンキャンペーン」の日で、毎年環境省が呼びかけをしております。

今年は、「7月7日に宮城県庁でもライトダウンをしよう！」ということで、現在、可能な範囲でのライトダウン実施を呼びかけようとしているところです。

みなさまも、ライトダウンの実施と呼びかけをしてみませんか？（くれぐれも、暗闇の中での怪我などないようにご注意ください！）

※URL：<http://coolearthday.jp/>

★次回の活動実績報告について

次の活動実績報告は、8月です。4月から7月までの活動についてご報告願います。

今回のように、皆様の活動が「通信」に掲載されるかも知れません。活動を通じて感じたこと、他の推進員さんにも伝えたいことなども、教えていただきたいと思います。

次回の発行は9月を予定しています。

<編集後記>

ようやく創刊号を発行することができました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。まだまだ手探りの状態ではありますが、少しでも皆様の活動のお役に立てればと思います。この通信は、**メール配信**を基本としたいので、今回郵送で送らせていただいた方は、メールアドレスを編集部まで教えていただきたいと思います。（担当：N）

ご意見・ご感想はこちらまで
（編集部）

宮城県環境生活部環境政策課
地球環境班

TEL：022-211-2661

FAX：022-211-2669

URL：kankyoe@pref.miyagi.jp

